

国の経済対策に伴う交付金の活用方法
(町の総合計画に基づいて実施)
尚武館の早期改築を
(建設を検討する)

理解を得るためには、広域化の範囲を二次医療圏単位とすべきとしている。また、北海道と市町村の役割を明確に位置付けた議論が必要であるとされている。

質問 広域化のメリット・デメリットは。

町長 広域のメリットは、財政基盤の強化と事務の共有化、効率化を挙げることができ。

デメリットは、広域化により国保業務の広域化組織と市町村での分担が想定され、事務処理等の時間差が生じ、被保険者に対するサービスの低下(迅速性の欠如)と被保険者の制度に対する理解と協力が得がたいものになる懸念がある。

国の経済対策に伴う交付金の活用について

質問 国の経済対策の一環として「きめ細かな交付金」と

「住民生活に光をそそぐ交付金」が国の補正予算で配分が

決まったところであるが、その交付金の活用はどのような計画になっているのか。

町長 今回の国からの交付金は、円高でデフレ対応のための緊急経済対策に盛り込まれた地方公共団体に対する地域活性化対策の一環である。国から具体的な実施要綱、交付要綱の通知を受けていない状況にあり、計画は検討中であるが、繰越明許費は可能であるため、事業としては平成23年度実施する見込みである。

「きめ細かな交付金」は、地域活性化ニーズに応じた事業を対象としており、本町の総合計画を基本とし、計画を策定する。

また、「住民生活に光をそそぐ交付金」については、これまで住民生活に光が十分に当てられなかった分野を対象とするもので、具体的には①地方消費者行政やDV対策、②自殺予防等の弱者対策及び自立支援、③「知」の地域づくりの3分野に限定して交付される交付金である。

現段階では、本町の「知」の拠点でもある図書館を中心に計画を予定している。



平澤 豊勝 議員

尚武館の早期改築を

質問 尚武館は木造施設で相当老朽化しており、建設当時とは周辺の環境も大きく様変わりしている。新十津川尚武会や未来を担う子ども達へ剣道を普及させるべく、将来を見据えて施設の改築をする考えはあるのか。

教育長 本町における剣道の位置付けは、母村からの伝統を受け継ぎ、文武両道を基本とした教育の中で歩んできた歴史的経緯があり、他の町にはない特色である。

尚武館は、尚武会百年の歴史の3分の1以上を見守った

建物で、旧下徳富中学校の解体材を一部利用して昭和48年に現在地に建設したものである。

新十津川剣道の2世紀を迎え、新たな気持ちで子ども達に文武両道の精神を教育するためにも、出来る限り早い時期に、利用の中心となる尚武会関係者の皆さんの要望に応えられるよう、町長や議会と相談して、ふさわしい場所に建設するよう検討したい。



昭和48年に建てられた尚武館